



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和6年6月28日

さいたま市立土合小学校

地域に見守られる学校をつくるために

校長 白倉 秀樹

1学期も、いよいよあと20日程となりました。7月は1学期の学習や学校生活のまとめの月であり、どの学年学級においても1学期間を振り返り、子どもたちが自分の成長と今後取り組まなければならない課題について実感できるよう指導や支援を進めているところです。6月には個人面談を実施させていただきました。短時間の面談でしたが、保護者の皆様の御協力のおかげで今後の教育活動が有意義となるお話を伺うことができました。

地域から土合小学校に御協力いただいていることに、子どもたちの登下校の見守りが挙げられます。6月14日に学校安全ネットワーク連絡協議会を行いまして、日頃登下校の見守りについてお世話になっているPTAの皆様や防犯ボランティアの皆様、自治会長の皆様や子どもひなん所110番の家に登録していただいている皆様にお越しいただき、活動内容や取組の現状についてお話を伺うことができました。「子どもたちの笑顔を見たり、あいさつの声を聞いたりすることで元気が湧いてくる」というお言葉をいただき大変うれしく感じましたが、ボランティアのなり手がいないことは大きな問題となっているというお話も伺いました。そういったお話を伺いながら、ふと思い出したことがありました。

実は、本校には交通指導員さんが1人もいません。交通指導員とはさいたま市が行っている有償ボランティアの制度です。25歳から74歳までの方ならどなたでもできるものです。職務内容としては小学校通学路立哨指導が主なものであり、さいたま市のホームページにも掲載されています。先ほどの本校に関わるボランティアの募集も含めて、もしやってみようという方がいましたら、本校まで御連絡ください。短時間の関わりで十分なものです。よろしく願いいたします。

また、6月24日に学校運営協議会を行いました。今年度の学校経営方針について様々な方面から御意見をいただきました。元気にあいさつができる学校づくりや多様性を認める学校の推進、キャリア教育の充実や主体的に行動する児童の育成の環境整備、ICT教育の充実と共に実際に経験することの重要性等、様々な課題点や共通目標について御意見が出される中、「地域に愛着をもつ学校」の推進という言葉が印象的でした。

私自身も学校現場から去る時がいずれ来ます。その時に、今私が住んでいる地域に対しどのような関わりができるのか、どのような恩返しができるのか、いろいろと考えます。私が住んでいるマンションの隣には小学校と中学校があります。自分が携わった職業上、小学校や中学校に関わろうという思いに至ります。そう考えると、学校という場所の存在感の大きさというものはどの地域でも普遍的なものであると感じました。

1学期間、保護者や地域の皆様には大変お世話になりました。今年度は39日間の夏休みです。8月28日に、一まわり成長した子どもたちに会えることがとても楽しみです。安全に気をつけて子どもたちが夏休みを過ごしてくれることを願っております。